

怪談・不思議系文学など
不思議なお話研究者

三浦 正雄

Miura Masao

- ◆ 不思議なお話研究者
- ◆ 怪談の百識王
- ◆ 埼玉学園大学人間学部子ども発達学科教授
- ◆ 著作家／論文・著書・編著多数



1958年、神奈川県藤沢市出身。
早稲田大学教育学部国語国文科卒業。
青山学院大学大学院文学研究科日本文学・日本語専攻。博士後期課程単位取得満期退学。
神奈川県内の公立中学校・高等学校で教鞭をとった後、山陽学園短期大学、川口短期大学を経て、現在は埼玉学園大学人間学部子ども発達学科教授。
専門分野は日本近現代文学&日本近現代児童文学。とくに、不思議なお話研究者(怪談評論家&不思議系文学評論家)として、怪談、不思議系文学、スピリチュアル系文学を研究するが、怪談といってもおどろおどろしい話ではなく、「本当はこんなに深く良い話だった」という新釈を唱えている。
執筆や講演、朗読や読み聞かせを通して、大人から子どもまで、日本の不思議な話を伝承することにより、目に見えないものや他人を尊ぶことの大切さを教えている。

【不思議なお話は、現代の心の栄養である】

現代は実用重視の社会となっているが、便利になったことが幸せになったこととは異なり、大人から子どもまで、生活苦にあえいだりいじめに悩んだり、心を病んでいる。
三浦教授は、近現代社会の病理は、人間の理屈(物質科学・合理主義等)によってのみ世界を解釈できるとしたところにあると考え、人間が不思議なもの神秘的ものに謙虚に頭に下げるといふことの大切さを世に訴えようと思ひ、近現代の怪談文学・不思議系文学等の研究を志している。
そのための入口として、不思議な話(文学・物語・実話)にたくさん出会っておくことは心の栄養としても大切なことであると、「不思議なお話研究者」として、日本近現代をはじめ古今東西の様々な不思議な話を簡潔におもしろく多くの人にナビゲートしている。

【“怪談の百識王”として、文学・落語・歌舞伎・怪獣研究から、朗読・読み聞かせ・テレビ出演までマルチにこなす】

三浦教授の怪談研究は文学だけにとどまらず、落語、歌舞伎、怪獣映画など広範囲に及ぶ。江戸の怪談噺の第一人者 三遊亭円朝の「怪談牡丹灯籠」、「形部姫伝説と近代作家」、「神経病としての怪談」、「百猫伝 巻之一『俳優市川 団十郎の猫』をめぐって」、「香山滋くゴジラ作品群」に関する考察等、論文多数。
また、大学では子ども発達学科の教授として、児童文学を通して子どもの健全な精神の発達を育む教育を教えたり、テレビや人権メッセージ展などに出演し、人間一人一人が本来もっている輝きを取り戻す事も主張している。

【著書】

「あの世はあった」(江原啓之氏推薦。
2006年ホメオシス刊、2012年ヒカルランド新版発行)、
「怪談」(編著、講談社)、「楽しい創作入門」「乙女の教室」他。

【メディア出演】

NHK「首都圏ネットワーク」インタビュー
「太陽」インタビュー、「ダカーポ」インタビュー
「神奈川新聞」インタビュー、「読売新聞」1面コラム
「プチセブン」インタビュー、「サイゾー」書評
「東京新聞」&「中日新聞」1頁特集、「ムー」大特集執筆 他多数。



【取材内容・講演テーマ】

・ 不思議話(怪談)から学ぶ人生の知恵、不思議話のちょっといい話
・ 飼い猫が化け猫に変わる? ・ 落語の怪談噺 ・ 文豪・知識人の心霊体験 など

取材のお問い合わせは、ホワイトナイト(株)久保まで TEL: 03-5414-2831